
ロープレ風味

ルリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロープレ風味

【コード】

N8310X

【作者名】

ルリ

【あらすじ】

NARUTO世界が終わった主人公の次の転生先。

NARUTOの世界が終わったのを実感した。

目が覚めたら平和な日本だった。

とはいえ、僕がすんでいた世界に比べてかなり進んだ世界だった。僕達の家は3人家族だ。

両親はいなく、上に姉？二人がいる。

今日は、姉が頑張って抽選で当たった新作ゲームをやる予定だ。

むしろ会場は自宅ではなく、ホテルだった。

最近のゲームは五感体験型ゲームと3Dによるゲームが主流である。とはいえリアルゲームは高い1台2000万もする。

逆に3Dの方は1台2000円という驚きの安さである。

姉が当たったゲームは五感体験型のモニターで2人1組だった。

モニターが終わったらもらえるらしい。

そんな僕たちは、今もう一人の姉？に

「どうして二人とも言ってくれなかったのかな・・・かな」

「ごめん。でも」

怒られていた。

「でも。何かナ・・・かな」

「「申し訳ございません」」

彼女の機嫌を取ること30分が経った。

機嫌が直った彼女とトランプをしていた。

彼女のもう1人の知人が当たったらしく計4人である。

2時間ほどでホテルに到着した。
ホテル周辺は大自然だった。
着いて早々、健康診断を受けた。
何でも、よりリアルに近づけるためらしい。
それが終わったので、夕食とお風呂が終わった。
自然と他2人も部屋に集まってきた。
僕は、姉の要望にこたえ一人疲れたので寝た。
キャラクターメイキングに姉達はいそしんでいた。

姉SIDE

「桂ったら寝たわね」

そこに苦笑している姉がいた。

「いいんじゃない。さて、私達のメンバーに足りないのは癒しか」

「そうね。ふむ……………あ」

「桂」

「あ……………考えることは一緒か」

「そうみたいね。それに私は、妹ほしかったのよ」

「ああ。わかる」

そっぴい桂の名前や年齢などを変更していた。
それが終わり全員自分達のを多少変更した。

翌朝。

朝食を食べ終わり、早速ヘルメットをかぶりログインした。

大きなテレビからまばゆい光が現れ会場にいた者たちを包み込み

……きえた……

そのホテルに誰もいなくなった。

その後。警察が調べに来ることもなかった。

主人公SIDE

光に包まれる瞬間。

ものすごく痛かった。

自分の体が勝手に変えられる感覚に耐えきれず気絶した。

姉SIDE

ここは、ゲームの中みたいね

「ウー。ログアウトできないぞ」

「ナニー」

このモニターに参加したものが混乱した。

その数、約3000人である。

そうこのモニターは世界中で、行われていた。

姉が起きたのはちょうどほかのプレイヤーが混乱しだした時に起きた。

自分の隣にいる子を見て、首をかしげた。
「……この子……誰だっけ」

「本当にできないみたいですね」

「確か。マヤちゃん」

「はい。」

「この子誰か分かる？」

そこに小さな子を指さす姉がいた。

「ゲームのキャラクターのままならあなたの弟君ですね」

「エ……マジ」

「ええ。私達全員が、ゲームのキャラのままだったから間違いないです。」

それに彼。その後、私達がお酒飲みながら作ってしまったんです。

「そういえばそうね」

主人公 SIDE

「……」

姉が話しこんでいると小さい子（弟君）が起き出した。

「起きた」

「・・・ウン・・・ここはゲームの世界？」

「そのとおりよ。でも、ログアウトできない」

「・・・え。」

「それより自分の格好見ておいた方がいいわよ」

「エ・・・体が・・・え・・・ない・・・なんで」

そついうと体をペタペタした後。

違和感を感じ自分の股を触ってみるとなかった。

「もしかして、女の子？」

自分の服を脱ごうとした所

「ダメよ」

止められてしまった。

「ステータスで確認した方がいいよ。自分の状態が一発で分かるから
出し方は、ステータスを出したと思えばいい。

こんな風に」

そついうとステータスが出た。

マヤ

種族 人間 性別 女性 年齢 15歳
クラス なし

HP 15
MP 0

「……うん」

確認したら、

ルリ

種族 人間 性別 女の子 年齢 8歳
クラス なし

HP 8
MP 0

「ウン」

それを見て落ち込んだ。

10分後にほかのメンバーが集結した。
ルリが回復するのを待つてPTを組んだ。
他の人たちもPTを組んでいた。

「しかし、名前もゲーム名みたいだね」

「そういえばそうですね。
で、とりあえずPTのステータスを自己紹介代わりにルリ・マヤ
を除いてやりましょう」

ユメイ

種族	人間	性別	女性	年齢	16歳
クラス	なし				
HP	15				
MP	0				

スズカ

種族	人間	性別	女性	年齢	14歳
クラス	なし				
HP	15				
MP	0				

「この、クラスというのは？」

「ああ。そういえば桂いやルリは、説明聞いていませんでしたね」

「・・・ウ・・・悪かつ・・・ひゃあ・・・何を」

突然ユメイがコチヨコチヨした。

「言葉遣い。直しなさい。変よ。その格好で」

「いや・・・でも」

「まあ。ユメイの言うとおり治した方が無難」

「しかし」

「」「ナオシナサイ」「」

「・・・はい」

「まあとりあえずクラスというのは、職業のことよ」

「職業？」

「職業というのは、

この世界なら剣士・魔法使いなどのことです。

クラスは、初めは愚者しか選べないわ」

「その都度教えていくわ。まずは、神殿に行きましょう」

こうして、4人は神殿を目指した。

テクテク

神殿を目指す4人。
見上げると

「大きい？」

「そうね。」

「行くわよ」

そこには、何人ものPKが並んでいる姿があった。

「多い」

2時間後

ついにぼ……私達の番になった。

「あなた方だと愚者ですね。何か説明要りますか」

「愚者というのは？」

「オヤ。これはお嬢ちゃん」

「お……嬢ちゃん……ウツ……」

「ほら泣かない」

ルリをユメイが落ち着くまで抱きしめた。

「よろしいでしょうか」

「ええ」

「・・・患者というのは一番初めになれるクラスのことだよ。その後、患者レベルが上がれば別のクラスにチェンジできる。分かったかな」

「・・・うん」

「じゃあ患者カードを差し上げよう」

そっつい4人に患者カードを渡した。

このカードは身分証明にもなる優れものらしい。

「次は、スキルだね。」

「スキル？」

「ああ。これは、失敬。

スキルというのは、大別すると3つに分かれます。

1つ目は、ノーマルスキルです。

このノーマルスキルは、戦闘用のスキルのことです。たとえばファイアーボールとかがそれに当たります。

2つ目は、生活スキルです。

この生活スキルは、文字道理ふだんの生活に役立つスキルです。たとえば、料理・釣りなどがこれに当たります。

3つ目は、ユニークスキルです。

このユニークスキルは、クエストをクリア又は、特殊アイテムなどで入手できます。

一般的にスキルを覚えるには、スキルポイントをためて覚えるのが主流だよ。

せっかくだからこの中から6枚選ぶといい。

初期だと無料で入手できる。

今回はお金を払わないといけない。

お嬢ちゃんは、剣・槍・斧は無理だから」

ノーマル

剣 槍 斧 投げる ジャンプ ダッシュ

生活

泳ぎ 釣り 料理 洗濯 掃除

ユメイ 料理 洗濯 掃除 剣 ジャンプ ダッシュ

マヤ 料理 洗濯 掃除 ジャンプ ダッシュ 投げる

すずか 料理 洗濯 掃除 剣 槍 ダッシュ

ルリ 料理 洗濯 掃除 釣り ダッシュ ジャンプ

この後、初心者用の剣と杖と釣竿をくれた。

装備した武器でモンスターと対戦した。

といっても実際に倒したのは、すずかさんとユメイお姉ちゃんのみだった。

マヤさんは、近場に来ていたモンスターを投げたり私と一緒にかわしたりした。

モンスターを倒したら、少しだけGが入手できるみたい。

村の門限の一步手前まで戦い合計2000G貯まった。

宿の大部屋に泊まることになった。

食事は、1階の食堂で食べた。

食堂にて

「はい。アーン」

「・・・ウ・・・アーン」

とユメイお姉ちゃんの手で食べさせられた。

どうもこの体だとそこまで食べれなくて

3人が食べている料理から少しずつ食べることになった。

その際、先ほどのようになる。

食事が終わり大部屋であったかいお湯に入っているバスタオルで

「ちょ・・・」

「ほらじっとして」

そついいルリの服を手早く脱がせバスタオルで拭かれた。

それが終わり、床で寝ようとしたら

「ここでお姉ちゃんと寝なさい」

「遠慮し・・・え・・・ワー」

遠慮しようとしたが、スズカさんに抱きかかえられ

4人が一緒に寝れるぐらいのベッドの真ん中に寝かされた。

むろん右側にユメイお姉ちゃん左にスズカさんに抱きしめられながら寝てしまった。

その際マヤさんの恐ろしいつぶやきは聞かないふりで

「明日は、私かな」

ルリ LV2 HP10 MP2

種族 人間 性別 女の子 年齢 8歳
クラス 愚者 LV2

STR 1
DEX 2
VIT 2
AGI 3
INT 1
WIS 5
LUK 1

スキルポイント 2

スキル
ノーマル

ダッシュ LV2 ジャンプ LV1

生活

料理 LV1 掃除 LV1 洗濯 LV1 釣り LV1

ユメイ LV3 HP20 MP5

種族 人間 性別 女性 年齢 16歳
クラス 愚者 LV3

LUK 2
WIS 5
INT 1
AGI 4
VIT 3
DEX 4
STR 3

種族 人間
性別 女性
年齢 14歳
クラス 愚者 LV3

スズカ LV3
HP 25
MP 3

剣 LV2
ジャンプ LV1
ダッシュ LV3
生活
料理 LV1
洗濯 LV1
掃除 LV1

スキル

ノーマル

スキルポイント 2

LUK 2
WIS 5
INT 1
AGI 5
VIT 2
DEX 5
STR 2

スキルポイント 2

スキル

ノーマル

剣 LV3 ダッシュ LV2 ジャンプ LV2

生活

料理 LV1 洗濯 LV1 掃除 LV1

マヤ LV3 HP 18 MP 2

種族 人間 性別 女性 年齢 15歳
クラス 愚者 LV3

STR 1
DEX 2
VIT 3
AGI 4
INT 2
WIS 7
LUK 2

スキルポイント 2

スキル

ノーマル

ジャンプ LV1 ダッシュ LV2 投げる LV2

生活

料理 LV1 洗濯 LV1 掃除 LV1

翌日。

．．．．息苦しい
．．．．暖かい
．．．．でも息苦しい

パチ

目を覚ましたら真っ暗だった。

ギユ

「ン．．．ン．．．ンン」

とされ顔は柔らかいものに当たっていたが
抵抗したがなかなか外れなくて．．．暗闇に包まれた。

「．．．．い．．．．お．．．．い．．．．おきて」

「ン．．．あれ．．．ユメイお姉ちゃん」

「おはよう．．．ごめんね」

と謝っていた。

今日はパンの為助かった。

またまた戦闘するために出かけた。

これが1週間続いた。

さすがに1週間も続くとクラスチェンジ可能になった。

金額も5万G稼げた。
神殿を目指した。

「さて、どうやら愚者レベルが上がったみたいですね。
いいでしょうクラスチェンジを行いましょ。この中から選んで
ください。

言っておきますがお嬢ちゃんは、剣師・僧侶・武闘家には成れま
せんから、

その代りお嬢ちゃんには、巫女になれます」

剣士 魔法使い 僧侶 武闘家 神官 巫女（幼女専用）
農家 漁師 猟師 生成師 遊び人 木こり

「・・・この職業どれがいいのか分からない」

「そういえばまだ教えてなかったわね」

「では、お嬢ちゃんぜひこの巫女を選んでください」

「確かにお嬢ちゃんには巫女の方がいい（幼女の巫女みたい）」

「そうだな（幼女巫女。いい）」

と血走った眼で説得にかかる人達がいた。

「・・・ヒィ」

「やらないと・・・ダメ？」

「みたいね。巫女以外を選ぶと反発が出そう」

話し合い（脅迫）に負けルリは巫女を選んだ。

全員選び終わり、最後には、いつの間にか住民が消えていた。
宿屋に泊まった。

なぜか豪華な料理と部屋に案内された上にもものすごく格安だった。

ルリ L V 8 H P 43 M P 87

種族 人間 性別 女の子 年齢 8歳
クラス 巫女 L V 1

S T R 1
D E X 7
V I T 5
A G I 7
I N T 5
W I S 45
L U K 8

スキルポイント 14

スキル

ノーマル

ダッシュ L V 9 ジャンプ L V 3

生活

料理 L V 1 掃除 L V 1 洗濯 L V 1 釣り L V 1

ユメイ L V 13 H P 70 M P 23

種族 人間 性別 女性 年齢 16歳
クラス 剣士 LV1

STR 2
DEX 10
VIT 23
AGI 13
INT 5
WIS 10
LUK 5

スキルポイント 15

スキル
ノーマル

剣 LV8 ジャンプ LV3 ダッシュ LV9

生活

料理 LV1 洗濯 LV1 掃除

スズカ LV13 HP89 MP17

種族 人間 性別 女性 年齢 14歳

クラス 剣士 LV1

STR 3
DEX 17
VIT 18
AGI 27

INT 3
WIS 13
LUK 5

スキルポイント 15

スキル

ノーマル

剣 LV10 ダッシュ LV8 ジャンプ LV2

生活

料理 LV1 洗濯 LV1 掃除 LV1

マヤ LV12 HP 57 MP 38

種族 人間 性別 女性 年齢 15歳
クラス 魔法使い LV1

STR 1
DEX 5
VIT 5
AGI 10
INT 17
WIS 20
LUK 4

スキルポイント 15

スキル

ノーマル

料理	LV1	洗濯	LV1	掃除	LV1	ジャンプ	LV3	ダッシュ	LV7	投げる	LV2
						生活					

翌日。

といても今日するのは、今後の方針とスキルポイントを使い新たなスキルを覚えるらしい。

いまだに、抱きつかれるのは抵抗があるが

抵抗しても、力で負け口で説得されて勝てなかったのであきらめた。現在、スズカさんに抱きつかれながらの話し合いになった。

「さて、今後の方針の前に今わかっている状況を整理しましょう。」

「そういえば、ここ数日は、それどころじゃなかったもんね」

今わかっていること

- 1 約3000万人がこの世界に取り込まれた
- 2 ギルドがあり、そこで、クエストを受けることが出来る
- 3 魔王・竜・エルフ・吸血鬼などがある
- 4 今の所もとの世界に帰る方法は不明

今後は、クエストを受けつつPTを増やし、元の世界に帰る方法を手する

スキルポイントを使い新しいスキルを増やした。

今は、新しい街に行くためにいろいろ買っている。

「香辛料・・・こんなにあるのか・・・ひゃ」

「言葉遣い」

「ごめんなさい」

「さて、大量に買えたわね。巫女に対する割引額がすごい気がする」
「……うん」

巫女に対する割引額が大体30%割引されているのである。

それが終わり宿の食料品などを置いた後ギルドによりクエストを受けた。

クエストの内容は

明日 隣町ララに行く商人の護衛である。

ルリ L V 8 H P 4 3 M P 1 0 5

種族 人間 性別 女の子 年齢 8歳
クラス 巫女 L V 1

S T R 1
D E X 7
V I T 5
A G I 7
I N T 5
W I S 4 5
L U K 8

スキルポイント 0

スキル

ノーマル

ダッシュ

L V 9

ジャンプ

L V 3

祈り

L V 1

祈り																				
回復	LV 1																			
生活																				
料理	LV 1	掃除	LV 3	洗濯	LV 1	釣り	LV 1													
ステータス																				
MP上昇	LV 1	素質	LV 1																	
ユメイ	LV 13	HP	80	MP	23															
種族	人間	性別	女性	年齢	16歳															
クラス	剣士	LV	1																	
STR	2																			
DEX	10																			
VIT	23																			
AGI	13																			
INT	5																			
WIS	10																			
LUK	5																			
スキルポイント	0																			
スキル																				
ノーマル																				
剣	LV 8	剣技	LV 1	ジャンプ	LV 3	ダッシュ	LV 9													
剣技																				
魔人剣	LV 1																			
生活																				
料理	LV 1	洗濯	LV 1	掃除	LV 3															

ステータス

HP上昇 LV1

スズカ LV13 HP102 MP17

種族 人間 性別 女性 年齢 14歳

クラス 剣士 LV1

STR 3

DEX 17

VIT 18

AGI 27

INT 3

WIS 13

LUK 5

スキルポイント 0

スキル

ノーマル

剣 LV10 剣技 LV1 ダッシュ LV8 ジャンプ LV2

剣技

魔人剣 LV1

生活

料理 LV1 洗濯 LV1 掃除 LV1

ステータス

HP上昇 LV1

マヤ L V 1 2 H P 5 7 M P 3 8

種族 人間 性別 女性 年齢 15歳

クラス 魔法使い L V 1

S T R 1

D E X 5

V I T 5

A G I 1 0

I N T 1 7

W I S 2 0

L U K 4

スキルポイント 0

スキル

ノーマル

ジャンプ L V 3 ダッシュ L V 7 投げる L V 2 魔法 L

V 1

魔法

ファイア L V 1

生活

料理 L V 1 洗濯 L V 1 掃除 L V 1

ステータス

M P 上昇 L V 1

「今日はよろしく頼むよ」

と商人の人たちに言われた。

護衛は、お……私達を含めて50名の10PTのよう。
商人といっても流れの旅商人一座みたいです。
その数。なんと100名を越えていた。

「お嬢ちゃんは馬車になるといい」

「……いえ。歩いて……エ……ワ」

歩いて行くと言おうとしたが、商人の奥様達によって阻止された。

ペタペタ

「チヨ……やめ……ひゃ……ん……ん」

馬車の外からは、あられもない声が響いていた。

そこに想像をたくましくする男達が前かがみのまま出発していた。

馬車の内部

「しかし……お肌スベスベね」

「確かに……そういえばレフィアも肌スベスベだったけ」

「・・・そうね。やっぱり子供は肌スベスベね」

ペタペタ

尚を触って感触を楽しんでいた。

ペタペタ

「・・・ん・・・ん・・・だからやめ・・・」

ペタペタ

あまりのくすぐったさに気絶した。

「やり過ぎたわね」

「私のお下がりに着替えさせていい」

「いいけど・・・ん・・・なんでレフィアがニコニコしてるの」

みると先ほど話題に上がったレフィア（9歳）がいた。

「私と同じ年ぐらいの子この子しかいなくて」

「・・・ああ。そういえばそうね」

1時間後

気絶から立ち直ったのか目を覚ましていた。

「ニコは・・・あれ・・・」

「あ……おきた」

みるとレフィアの顔がドアップになっていた。

「わ……」

あわてて起き出した。

「ごめんね」

と謝る奥さん達がいた。

その後、レフィアとたくさんの話をした。

主に話していたのはレフィアで、ルリは聞き役だった。

話し込んでいたらいつの間にかララに到着していた。

道中は何もなかった。

「おかしいな」

「確かに」

不気味がっていた商人達がいた。

ララに到着した一行は、そこで宿屋に泊った。
宿泊代も商人さん達が出してくれた。

そのまま崩しにレフィアと一緒にベットに寝ることになった。

「（寝れない。どうしろと）」

目を開けたまま自問自答してみた。

「寝れないの？」

「・・・エ・・・レフィア。起きていたの」

「まあね。」

その後レフィアと共に夜更かしをした。
最もお互い翌日の朝には寝不足だったが
レフィアの案内でギルドに案内してくれるそうだ。

「ほら、こつちだよ」

「わ・・・早いから」

手をつながれながら先を急がされた。
ギルドに到着

冒険者ギルドに登録した。

この世界では、ギルドカードが発行されるそうだ。
今まで倒した魔物の情報や討伐数やクエストが自動的に追加される

優れものだ。

今・・・私達は一つのクエストを受けた。
といってもここから10日ほどにある風の神殿に赴くという簡単な
ものだった。

といってもそこから先は巫女が何かの儀式をするらしい。

商人さん達から護衛代の報酬を受け取った。

報酬代が金貨30枚だった。

1 銭 都会でパン1切れ。 田舎でパン10袋である。

1000 銭が1銅貨。

1000 銅貨が1銀貨。

1000 銀貨で1金貨。

1000 金貨で1センカ

1 銀貨あれば家族4人で1ヶ月贅沢しても暮らせる額らしい。

別れ際レフィアから

チュ

とおおの方にキスされた

カー

「・・・なにを」

「別れのプ・レ・ゼン・ト。 またね」

と手を振り別れた。

その後旅の支度をしながら宿屋に戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8310x/>

ロープレ風味

2011年10月26日13時03分発行